

三心を磨く

学校だより NO. 49
平成30年 12月7日(金)発行
須坂市立東中学校
文責：金井 勝久 教頭
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

第3回 学校運営委員会より

第3回学校運営委員会が、11月27日(火)に行われました。当日は、各学級の授業参観並びに学校給食の試食会、意見交換を行い、委員の皆様からご意見や感想をいただきました。

【各クラスの授業参観をした中で感じられたこと】

○英語の授業より … 授業にゲームを取り入れて、コミュニケーションの力を高めようとしていた。とても良いと思う。英語の授業時数は各学年どのようにしているのか、TT指導の役割はそれぞれ何か、英語の地域ボランティアの有無、英語の指導上で困っていることは何か？

→英語は、全学年週4時間。英語のTTは本校独自のものであり、本校では英・数に力を入れている。地域ボランティアは現在2名。英語検定に向けた授業を、水曜の放課後をお願いしている。困っていることは、「学力の2極化」である。中学校入学の時点ですでに英語力の差があり、興味関心に差がある。また、今求められている「使える英語・話せる英語」ということが難しく、課題になっている。

○英語・社会科で、同じ学年で2クラス同時に授業をしていた。これは何か意図があってやっているのか？
○同じ社会科でも、先生によって授業の進め方、目を向けるところが違う。「隣近所で相談してごらん」と言われて一人になる子もいれば、「グループで机をあわせてごらん」と言われて一人になる子もいる。いろいろな目で子どもを見て行かれるところが素晴らしい。そういう意味でもこうした取組はよいと思う。

→教師の授業改善のためにやっている。進捗の確認・調整が確実にできるだけではなく、若手とベテラン・中堅が組むことでお互いに学び合え、教科担任の力量の差による不公平感をなくすこともできている。

○昔と授業が違っている。保健体育では、ユーチューブを活用してダンスをしている。好きな子にはとてもいい時間になっている。英語の時間は、英語をあまり話していなかったが、時代の変化なのか？

→英語の授業は、最終的には日本語を使わないようにしたい。ただ、昔の先生が英語を読んで、生徒がそれをくり返すという授業スタイルはなくなり、「生徒が授業をつくっていく」ようになっているの現在である。

【その他の学校経営の中から感じられたこと】

○「縦割り活動」のねらいは何か？ 豊丘小学校で行われている縦割り、効果があるのはよく知っているのだが、中学校では、どんなことをねらって、どんな成果があるのか？

→全学年が2学級ずつになった去年より「縦割り活動」を試行し、今年本格的に取り組んでいる。縦割りにすることで、勝ち負けではないものをねらっている。具体的には異年齢の縦のつながりの強化、生徒会や学習、清掃や合唱などで学び合いを行っている。下級生は上級生から学ぶことができるし、上級生が下級生の取り組みから自分を見返すことができている。生徒のアンケートでも、縦割りの評価は高い。

○東中は、全国学力・学習状況調査の結果が伸びている。来年度は夏休みが長くなるという県教委の方針もあるようだが、夏休みの補習と卒業式後の授業はどうなるのか？これまでの様々な取組を、この先どうしていくのか？

→本校の補習は、他校よりも2～3年先駆けている。来年度はトイレの改修工事もあり、夏休みが長くなるが、学校は使えない。塾に行く生徒も少ないことから、小学校や地域の施設とも連携をして、東中学校区として何ができるのか、勤務時間の中でできる有効な手立てを考えていきたい。

○東中学校では、グループで活発に学習していることがわかった。今日は、どの授業でもワークシートを使う授業がとても多かった。我々の頃は、黒板を見てノートに書き写す授業が多かった。今はどうなのか？

→現在の授業では、黒板に書かれていることを「そのままノートに書き写す」という学習は少なくなってきており、「ワークシートを使って考える学習」になってきている。だが一方で生徒のアンケートには、「板書をノートに写すような授業をしてほしい」「ノートを書いた方が家庭での復習に役立つ」という声もある。黒板へのまとめと、ICT機器とノートをどう関連させていくのか、我々も研修していきたい。

【学校運営委員の皆様からのご意見】

- 現在の東中学校は、日常活動が大変充実してとても素晴らしい。これからも自信をもって進めてほしい。学校運営委員会の運営について、この会議を「成果を確認し合う場」ととどめず、「これからの東中の戦略を検討する場」にしたい。次回の委員会は、今年度の実績から、来年度はこうしたいということ提案してもらいたい。
- 長野県教育には、独自のことがいろいろある。他のところでは、学年をまたいで授業をもつことがあまりなく、「1年生の授業をする先生は1年生の授業のみ」という形が多い。長野県のように学年をまたぐ授業の担当の仕方は、先生方の教材研究の負担が増し、授業の質の低下を招くこともある。教科担任を年度途中、单元ごとに変えるということだが、ただ交替するのでは負担が増すこともあるのではないかと。しかし、单元ごとに担当を決めるとそれは防げる。先生方の「授業の質」を高めていくことも重要である。
- 「広島の平和教育」を、東祭の中に取り入れたということだが、とても素晴らしいことだと思う。実際に参加した生徒が、発表の場をもつことが大切。JRCの活動や須坂荘との交流ともども、ぜひ続けてほしい。
- 東中学校が、「人を人として大事にする教育」人権学習や、「お互いを認め合える関係をつくる」人権学習をカリキュラムの中に位置づけるのはとても大切である。そういう柱があってこそその学力向上である。
- 補習があっても、行きたくないと思う子もある。でも、そういう生徒もがんばって補習に行く。自分を磨こうとしている。そういう子が補習に参加することで、学力も上がる。そういう子たちの思いも評価したい。前向きな肯定感をもたせることが、人間教育なのではないか。
- 東祭で、仁礼地区の神楽の披露があった。男子の場合は、部活動や社会体育などが忙しいようで、中学に入るとやめてしまうことが多いが、今も続けてくれている女子がいる。様々な事情で、忙しく来られないときもあるのだが、来た時には小さい子どもたちにも教えてくれている。祭り当日も参加してくれた。
- 仁礼地区だけではなく、亀倉地区にも少年神楽がある。この地域の大切な伝統文化なので、大切に継承してほしい。そして機会があれば、他の地区の神楽も発表の場を作ってほしい。

※前回同様、短時間でしたが、多くのご意見をいただき、生徒たちのことを思い、考え、そして地域の様子や期待、実情などもお話いただき、大変有意義な会となりました。ご意見を生かしていきたいと思っております。

◇◇◇ ・田 悦子 先生の産休に伴った職員配置について ◇◇◇

この度、1年2組担任・英語科担当の・田先生が、大切な命を授かり12月8日より産休に入ります。それに伴い、以下のように職員の配置をいたしますのでご理解・ご協力ください。

- 1年2組学級担任： 齊藤 正一 先生 (教務主任・1学年の副任)
- 英語担当： 宮崎 玲子 先生 (3の1・3の2・2年の英語授業を担当)
- 1年2組英語教担： 戸谷 由美 先生 (1学年の副任)